

NHK交響楽団 年表 1926–2025

中村洪介・西村理 [編]

分冊①：1926–1935

- * 本年表はNHK交響楽団関連項目、社会および音楽界のおもな出来事の2欄にわけて構成している
- * 1926–1986年の年表は中村洪介による（『NHK交響楽団五十年史』『NHK交響楽団六十年史』の年表をもとに編集）
- * 1987–2025年の年表は西村理による

主要参考文献

- 『曲目と解説』『フィルハーモニー・パンフレット』『音楽雑誌フィルハーモニー』『日本交響楽団誌』『フィルハーモニー』
『近代日本総合年表』（岩波書店、1968）
『朝日年鑑』（朝日新聞社）、『毎日年鑑』（毎日新聞社）、『読売年鑑』（読売新聞社）
『NHK年鑑』（日本放送出版協会）
『音楽年鑑』（音楽之友社）
『音楽之友社25年のあゆみ』（音楽之友社、1966）
『放送50年史 資料編』（日本放送協会、1977）
『日本メディア史年表』（土屋礼子編、吉川弘文館、2018）
『20世紀放送史』（日本放送協会編、日本放送出版協会、2001）
『NHK放送100年史』（NHK編、NHK出版、2025）
M. E. Cullen: *Memorable Days in Music* (The Scarecrow Press Inc., 1970)
Baker's Biographical Dictionary of Musicians (G. Schirmer, 1971)
Riemann Musik Lexikon, Ergänzungsband Personeerteil (Schott's Söhne, 1972)

オンラインデータベース

「朝日新聞クロスサーチ」（朝日新聞）、「毎策」（毎日新聞）、「ヨミダス」（読売新聞）、「サントリーホール公演アーカイブ」（サントリーホール）

制作：公益財団法人 NHK交響楽団
©NHK Symphony Orchestra, Tokyo, 2025
編集協力：株式会社アルテスパブリッシング

1926

大正15・昭和元年

1926年10月5日

新交響楽団結成。今日のNHK交響楽団の基礎が確立。東京市京橋区西紺屋町24、塚本ピアノ店楼上に、日本交響楽協会（山田耕筰、近衛秀麿により前年3月創立）を脱退した楽員40余名が近衛秀麿を中心に集り、新交響楽団結団式を挙行

1926年10月10日

1926年10月16日

1926年10月22日

第1回研究発表演奏会開催（明治神宮外苑日本青年館）。バッハ《ブランデンブルク協奏曲第3番》、ベートーヴェン《交響曲第4番》、R.シュトラウス《13管楽器のためのセレナード》、ワーグナー《ニュルンベルクのマイスタージンガー》前奏曲を演奏、指揮近衛秀麿。研究発表演奏会は第3回まで開催（11月19日、12月5日）、このほか数回の臨時演奏会を開く

1926年10月22日

1926年10月24日

1926年10月29日

全関西舞台芸術協会主催により大阪市朝日会館において公演。新響最初の地方公演。10月30日神戸市青年会館において公演。11月1日名古屋放送局のラジオ放送に新響名称で出演。11月27日横浜市指路教会において公演

1926年11月11日

1926年11月12日

1926年11月16日

1926年11月26日

東京放送局からモーツァルト《交響曲第39番》ほかを新響名称で放送

1926年11月26～30日

1926年11月27日

1926年11月29日

1926年12月

1926年12月25日

在原区中延町に新練習所建設の地鎮祭執行

1927

昭和2年

1927年1月

機関誌『曲目と解説』発行、予約会員に無料配付。数度の誌名変更ののち、現在の機関誌『フィルハーモニー』となる

1927年1月1日

1927年1月1日

1927年2月20日

日本青年館において第1回予約（定期）演奏会開催。メンデルスゾーン《フィンガルの洞窟》序曲、モーツァルト《イドメネオ》舞踊組曲、シューベルト《交響曲第7番》のほか、前年12月25日に亡くなられた大正天皇をしのびグリーグ《2つの悲しい旋律》を追加演奏。指揮近衛秀麿。会員券料金A券毎月5円、B券毎月3円（各2回分）。2名以上連記の場合各1割引

1927年2月24日

1927年3月10～29日

1927年3月15日

1927年4月9日

1927年4月12日

1927年4月26日～5月5日

1927年4月27日

1927年4月28日～5月10日

朝日新聞社主催「ベートーベン没後100年記念祭」に5夜にわたって出演。5月3日《交響曲第9番》を新響初演

1927年5月10日

1927年6月4日

在原区中延町に練習所落成

1927年6月12日

第11回予約演奏会でカリンニコフ《交響曲第1番》、ムソルグスキー《荒山の一夜》を日本初演。指揮エマヌエル・メッテル

1927年6月20日

1927年7月24日

1927年8月1日

1927年9月13日

1927年9月18日

1927年10月

1927年12月7日

1927年12月25日

1928

昭和3年

1928年1月6日

1928年1月12日

1928年1月14日

1928年1月15日

1928年1月

機関誌『曲目と解説』を『フィルハーモニー・パンフレット』と改題、予約会員に無料配付

1928年1月中旬

1928年1月29日

報知講堂においてケーニヒ、前田璣、池譲、齋藤秀雄、辻井富造、第1回室内楽アンサンブル演奏会開催

1928年2月4日

1928年2月19日

日比谷公園において陸軍軍楽隊演奏。指揮辻順治（管弦楽）、平野主水（吹奏楽）

コダーイ《ハーリ・ヤーノシュ》ブダペストで世界初演

明治神宮外苑完成。奉献式

日比谷公園において海軍軍楽隊演奏。指揮早川弥左衛門（管弦楽）、内藤清五（吹奏楽）

モーツァルト《後宮からの誘拐》ロチェスター・オペラ団によりアメリカ合衆国初演

松本治一郎ら全国水平社幹部15人検挙

ブッチーニ《トゥーランドット》ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場において北米初演（世界初演はこの年4月25日、ミラノ・スカラ座でトスカニーニにより上演）

モギレフスキー来日、ヴァイオリン独奏会

クルシェネック《オルフォイスとオイリディーケ》カッセルで世界初演

ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場、「イタリア・オペラ上演100年記念」特別公演

天皇没。摂政裕仁親王踐祚、昭和と改元

クロイツァー、ピアニストとしてニューヨークでデビュー

築地小劇場、帝劇に進出、第1回公演

放送歌劇第1回放送。《カヴァレリア・ルスティカーナ》伊庭孝訳詩、松平里子、田谷力三ら出演。指揮近衛秀麿。以後1930（昭和5）年11月26日まで21回放送

帝劇においてカービ・イタリア大歌劇団公演。《椿姫》ほか17演目上演

銀行取付起り金融恐慌はじまる

米最高裁サッコとヴァンゼッティに死刑の判決。8月23日処刑。米裁判史上最最大の誤審

蒋介石上海に反共クーデター敢行（4.12クーデター）

帝劇においてロシア大歌劇団公演。《ホフマン物語》ほか7演目上演

ワインベルガー《笛吹きシュワンダ》プラハで世界初演

日本ポリドール蓄音器商会設立

ジュネーヴで日・米・英3国軍縮会議開催。失敗に終わる

芥川龍之介自殺

中共軍南昌で武装蜂起（のち8.1は人民解放軍の建軍記念日となる）

日本ビクター蓄音器株式会社設立。米国ビクター全額出資

徳富蘆花（小説）没

松平里子、佐藤美子、田谷力三、内田栄一らヴォーカル・フォア結成

諸井三郎主宰の作曲家・演奏家グループ「スルヤ」楽団第1回作品発表会

ニューヨークで現代ハンガリー音楽週間開催

セゴビア（ギター）アメリカ合衆国デビュー

ピーチャム（指揮）アメリカ合衆国デビュー

荻野綾子第1回独唱会

ラヴェル、ピアニストとしてアメリカ合衆国デビュー

蓄音器発明50年記念週間

二村定一第1回独唱会

国民交響管絃楽団第1回演奏会。指揮小松平五郎

	N 響	社会・音楽界
	1928年2月20日	ホロヴィッツ（ピアノ）ニューヨークにデビュー
	1928年3月15日	共産党員全国的大検挙（3.15事件）
	1928年4月18日	京大教授河上肇辞職をせまられ依頼免官。4月23日東大森義太郎、4月24日九大向坂逸郎ら大学を追われる
	1928年4月20日	東京シンフォニー・オーケストラ第1回演奏会。指揮内田元
	1928年5月10・11日	朝日講堂においてシューベルト没後100年祭記念演奏会開催
	1928年5月26～30日	ティボー来日、ヴァイオリン独奏会
	1928年6月4日	張作霖、関東軍の一部の謀略で列車を爆破され死亡（張作霖爆死事件）
	1928年6月6日	R.シュトラウス《エジプトのヘレン》ドレスデンで世界初演
	1928年6月29日	治安維持法改正公布（死刑、無期刑を追加）即日施行
	1928年7月26～30日	坪内逍遙翻訳「シェークスピア戯曲全集」完成記念演奏会でメンデルスゾーン《真夏の夜の夢》を演奏
	1928年7月28日	第9回オリンピック、アムステルダムで開催。織田幹雄、鶴田義行、初の金メダル獲得。人見絹代女性として陸上競技唯一の銀メダル
	1928年8月15日	佐伯祐三（洋画）パリで没
	1928年8月31日	ワイル《三文オペラ》ベルリンで世界初演。1931（昭和6）年映画化
	1928年10月28日	近衛秀麿、第36回予約演奏会でマーラー《交響曲第1番》を日本初演
	1928年11月3日	東京日日新聞社との共同主催により日比谷新音楽堂において御大典奉祝音楽会開催。宮城道雄《越天楽変奏曲》、近衛秀麿《大礼交声曲》ほかを演奏
	1928年11月22日	近衛秀麿《大礼交声曲》を作曲者の指揮によりビクター・レコードに録音。新響初のレコード録音。翌年2月から発売
	1928年12月6日	
	1928年12月8日	「作曲家組合」が「日本作曲家協会」と改称
1929 昭和4年	1929年1月	『フィルハーモニー・パンフレット』を『音楽雑誌フィルハーモニー』と改題、音楽雑誌として一般発売
	1929年1月	『音楽世界』創刊
	1929年1月	勅使河原若風廃物利用の花器に盛った生け花を『主婦之友』に発表、草月流関心をひき始める
	1929年1月24日	イタリアから帰国した奥田良三第1回独唱会
	1929年2月11日	ムッソリーニ、ローマ法王とラテラノ条約調印。バチカン市国の独立を承認
	1929年2月25日	武蔵野音楽学校設立認可
	1929年3月	大学卒業生の就職難深刻化。東大卒の就職率約30%。4月小津安二郎監督映画『大学は出たけれど』共感をよぶ
	1929年3月5日	旧労働農民党代議士山本宜治、七生義団団員に刺殺される
	1929年3月10日	ヨゼフ・ケーニヒ、第45回定期演奏会でドヴォルザーク《ヴァイオリン協奏曲》を日本初演。指揮近衛秀麿
	1929年3月16～30日	
	1929年3月21日	第46回定期演奏会でブラームス《交響曲第2番》を日本初演。指揮ヨゼフ・ケーニヒ
	1929年3月25日	
	1929年4月2日	のちに指揮者となったニコライ・シフェルブラット、ハルビンから来日。7月以降客演指揮者に迎える
	1929年4月4日	
	1929年4月12日	ヨゼフ・ケーニヒ楽壇生活35年記念祝賀会を丸の内中央亭で開く
	1929年4月16日	
	1929年4月26日～5月12日	
	1929年5月19日	第50回定期演奏会でR.シュトラウス《ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら》を日本初演。指揮近衛秀麿
	1929年6月7日	
	1929年6月13日	老後の救済のため千代田生命保険に集団加入
	1929年6月30日	ヨゼフ・ケーニヒ、ハルビンへ去る。1932（昭和7）年12月5日同地で没
	1929年6月30日	
	1929年7月	ニコライ・シフェルブラットを客員指揮者に招く。1936（昭和11）年7月まで近衛秀麿とともに指揮
	1929年7月1日	
	1929年10月16日	第55回定期演奏会でマーラー《交響曲第4番》を日本初演。指揮近衛秀麿、独唱荻野綾子
	1929年10月24日	齋藤秀雄第1回チェロ独奏会
	1929年10月26～28日、11月9・10日	
1929年11月20日	ニコライ・シフェルブラット指揮、ヴォーカル・フォアその他の出演により、ヴェルディ《椿姫》（伊庭孝訳）抜粋を日比谷公会堂において公演	
1929年11月28日		
1929年12月3日		
1929年12月4日	養老基金募集演奏会。純益を楽員の養老保険払い込み金に充当（1931〔昭和6〕年1月24日にも開催）	
1930 昭和5年	1930年1月21日	ロンドン海軍軍縮会議開く。4月22日、日英米仏伊5か国、ロンドン海軍条約調印
	1930年2月	兼常清佐「音楽芸術の階級性について」を雑誌『改造』に発表
	1930年2月3日	香港でヴェトナム共産党創立
	1930年2月6日	伊墮友好条約調印。ムッソリーニの対墮浸透活発化
	1930年2月26日	共産党全国的大検挙。7月までの検挙者1,500人

	N 響	社会・音楽界
	バルロフォン・レコードにマーラー《交響曲第4番》を録音。指揮近衛秀麿、独唱北沢栄。この曲の世界最初のレコード録音といわれる	
	1930年3月	日活映画部分トーキー『ふるさと』封切。主演藤原義江
	1930年3月14日	帝国劇場においてカービ・イタリア大歌劇団公演。《カルメン》ほか9演目を上演
	1930年3月21～30日	カワイ楽器製作所創立
	1930年4月13日	塩入亀輔、茂田光吉、山本直忠、菅原明朗、箕作秋吉、橋本国彦、池譲、松平頼則、清瀬保二、江藤輝、齋藤秀雄らにより「新興作曲家連盟」誕生。これはのちに小船幸次郎、大木正夫、呉泰次郎、池内友次郎らを加えて1936（昭和11）年「日本現代作曲家連盟」に発展。6月16日第1回試演会
	1930年4月28日	ミヨー《クリストファー・コロンブス》ベルリンで世界初演
	1930年5月5日	下村観山（日本画）没
	1930年5月10日	田山花袋（小説）没
	1930年5月13日	
	1930年6月4日	日比野愛次（第1ヴァイオリン）、尾原勝吉（第2ヴァイオリン）、古沢久元（ヴィオラ）、大村卯七（チェロ）によるクリスタル・クワルテット第1回演奏会
	1930年6月7日	豊竹呂昇（女義太夫）没
	1930年6月19日	イタリアから帰国した長坂好子第1回独唱会
	1930年9月24日	
	1930年9月26～30日	ジンパリスト、ヴァイオリン独奏会（4度目の来日）
	1930年9月下旬	近衛秀麿渡欧。各出版社と現代曲上演の契約を結んで翌年帰国。定期演奏会曲目の充実化を図る
	1930年10月6～9日	山田耕柞楽壇生活25年祝賀演奏会
	1930年10月17日	ボストン響創立50周年記念演奏会
	1930年10月21日	エフレム・ジンパリスト独奏でベートーヴェン《ロマンス》をコロムビア・レコードに録音
	1930年10月22日	第76回定期演奏会でジンパリストとブラームス《ヴァイオリン協奏曲》を協演。会場は立錐の余地なく、楽団は会場整理不手際を詫げる葉書を予約会員に送ったり、席を得られず立っている聴衆には会費の一部を払い戻したりした
	1930年12月	講談社レコード事業部発足。1951（昭和26）年キングレコードとなる
	1930年12月22日	この日を最初に荏原練習所から全国向け中継放送始まる。最後の放送は1934（昭和9）年12月29日
	1931年1月28日	第82回定期演奏会でシベリウス《トゥオネラの白鳥》、ラヴェル《ボレロ》を日本初演。指揮ニコライ・シフエルブラット
	1931年2月8日	
	1931年3月	クララ・バット来日、独唱会
	1931年3月19日	橋本欣五郎など桜会の一部将校および大川周明ら、軍部クーデターに宇垣内閣樹立を企図、未遂（3月事件）
	1931年3月19日	
	1931年3月21・23日	ベルク《ヴォツェック》フィラデルフィアでストコフスキーによりアメリカ合衆国初演
	1931年3月27・28日	ジルマルシェックス来日、ピアノ独奏会。10月再度演奏会
	1931年3月31日	内外混声オラトリオ協会、ブラームス《ドイツ・レクイエム》全曲を日本初演
	1931年4月1日	
	1931年4月4日	ムソルグスキー没後50年記念音楽祭に出演
	1931年4月1日	バルロフォン・レコードに近衛秀麿編曲の雅楽《越天楽》を録音
	1931年4月4日	近衛秀麿朝歓迎管弦楽合唱演奏会を横浜開港記念会館で開催。4月7日名古屋市公会堂で近衛婦朝歓迎大演奏会
	1931年4月6日	
	1931年4月22日	東京放送局第2放送を開始
	1931年4月25日	
	1931年4月26～30日	東京音楽学校、本科に作曲科設置。翌年4月作曲専科設置
	1931年5月4日	ダル・モンテ来日、独唱会
	1931年5月12日	クロイツァー第1回ピアノ独奏会。1934（昭和9）年2月再来日、以後日本に定住
	1931年5月26～30日	ウジェース・イザイ（ヴァイオリン、作曲）没
	1931年6月16日	シゲティ、ヴァイオリン独奏会（1932〔昭和7〕年11月、1953〔昭和28〕年3月にも来日）
	1931年6月17日	北村季晴（作曲）没
	1931年6月29日	
	1931年7月29日	第92回定期演奏会にヨゼフ・シゲティを迎える
	1931年8月1日	芸術的理由から新響革正委員会が組織され、この結果、楽員20余名自発的に退団（コロナ事件）
	1931年8月1日	バルロフォン・レコードにポロウィンキン《謎の舞曲》を録音。指揮近衛秀麿
	1931年9月2日	最初の本格的トーキー『マダムと女房』封切
	1931年9月18日	フランツ・シャルク（指揮）没
	1931年9月22日	関東軍参謀ら満州占領を企て満鉄線路爆破。関東軍司令官これを中国軍の所為として総攻撃を命令。満州事変始まる
	1931年9月24日	松平里子（ソプラノ）没
	1931年9月26～29日	
	1931年10月1日	ハイフェッツ来日、ヴァイオリン独奏会。10月28日、29日告別演奏会
	1931年10月3日	
	1931年10月9日	藤原義江オペラ・コミック座に出演
	1931年10月22日	
	1931年12月2日	ソ連より帰国した山田耕柞歓迎演奏会に日本交響楽協会と合同出演
	1931年12月2日	バルロフォン・レコードに《キスマット》、《ドリゴのセレナーデ》、《キャラバン》、《ボッケリーニのメヌエット》など4曲を録音
	1931年12月2日	ヴァンサン・ダンディ（作曲）没

1931

昭和6年

	N 響	社会・音楽界
	1931年12月16日	第100回定期演奏会開催。演奏曲目を一般公募、応募数60余通。指揮近衛秀麿、ニコライ・シフェルブラット
	1931年12月17日	ネトケ・レーヴェ帰国告別独唱会。新響との最後の協演は翌年5月1日
1932	1932年1月1日	蔭介石、汪兆銘と合体し新国民政府樹立
	1932年1月8日	朝鮮人李奉昌、桜田門外で天皇の馬車に爆弾を投げる（桜田門事件）
	1932年1月28日	上海で海軍陸戦隊、中国軍と交戦、上海事変始まる
	1932年1月31日	第102回定期演奏会に指揮者クラウス・プリングスハイムを迎える
	1932年2月17日	ポリドール・レコードにワイル《三文オペラ》と伝ハイドン《おもちゃの交響曲》を録音。指揮近衛秀麿
	1932年2月22日	内弾三勇士戦死、話題となる（戦意高揚のために作られた美談）
	1932年3月1日	満州国建国宣言発表
	1932年3月31日	ブライロフスキー来日、ピアノ独奏会
	1932年4月9日	ポリドール・レコードにハイドン《ピアノ協奏曲ニ長調》作品21を録音。独奏東伏見邦英伯爵、指揮近衛秀麿
	1932年4月9日	
	1932年4月18日	
	1932年4月19日	アレクサンダー・ブライロフスキー告別演奏会に出演
1932年4月20日		
1932年4月20日		
1932年5月1日		
1932年5月15日		
1932年5月22日	時事新報社主催第1回音楽コンクール作曲部門に出演、応募作品を演奏	
1932年5月31日		
1932年6月9日		
1932年6月16日		
1932年7月2日		
1932年7月13日		
1932年8月		
1932年8月12日		
1932年9月30日	第113回定期公演。この回より会場を日本青年館から日比谷公会堂に移し「定期演奏会」を「定期公演」と呼ぶことに改める。会員数900名未滿。会費はA券2円、B券1円	
1932年10月12日	第114回定期公演に再度エフレム・ジンバリストを迎える（10月18日告別演奏会にも出演）	
1932年11月5日	ヴォーカル・フォア主催、歌劇《リゴレット》に出演。指揮篠原正雄	
1932年11月9日	第116回定期公演にベンノ・モイセイヴィチを迎える	
1932年11月24日		
1932年12月5日	1929（昭和4）年6月30日ハルビンに去ったヨゼフ・ケーニヒと地で死去。59歳	
1932年12月11日	第118回定期公演に再度ヨゼフ・シゲティを迎える（12月12日告別演奏会にも出演）	
1933	1933年1月1日	
	1933年1月15日	
	1933年1月30日	
	1933年2月	
	1933年2月	
	1933年2月～3月	
	1933年2月9日	
	1933年2月20日	
	1933年2月22日	第121回定期公演にマリア・トルを迎え、ワーグナー没後50年記念演奏会を行う。指揮ニコライ・シフェルブラット
	1933年3月5日	
	1933年3月6日	バルロフォン・レコードに《輕騎兵》序曲、《詩人と農夫》序曲、《舞踏への勧誘》を録音。指揮近衛秀麿
	1933年4月	
1933年4月13日		
1933年4月19日	第123回定期公演に再度ベンノ・モイセイヴィチを迎える（6月7日告別演奏会にも出演）	
1933年5月6日	黒田謙主宰カブリ歌劇団第1回公演歌劇《ルチア》に出演。演出・訳伊庭孝。指揮篠原正雄。出演黒田謙、関種子、下八川圭祐ほか、合唱ヴォーカル・フォア	
1933年5月19日		
1933年5月31日	ハインリヒ・ウェルクマイスター作品発表会に出演	
1933年6月		
1933年6月7日	モイセイヴィチ告別演奏会に出演。ブラームス《ピアノ協奏曲第2番》日本初演	
1933年6月7日		
1933年6月29日		
1933年7月1日		
		日本軍山海関で中国軍と衝突。1月2日関東軍出動（山海関事件）
		米国、満州国不承認を列国に通告
		ヒトラー独首相に就任（ナチス政権獲得）
		『プロレタリア音楽』創刊
		ダミアの《暗い日曜日》のレコード厭世ムード助長の故に発売禁止
		イタリアのサン・カルロ歌劇団、日比谷公会堂と新橋演舞場において歌劇《ラ・ボエーム》上演
		前年6月バリ音楽院で第1位となった原智恵子帰国第1回ピアノ独奏会
		小林多喜二検挙され築地署で虐殺
		ドイツ最後の国会総選挙。ナチ党第1党、3月9日共産党非合法化される
		山根銀二、箕作秋吉ら『音楽評論』創刊
		島崎赤太郎（作曲）没
		ヘンリー・ハドリー、アメリカ作曲家・指揮者協会を設立
		内務省、左右出版物の徹底的取締りのため検閲制度の大改革と出版警察の拡充を行う
		共産党幹部佐野学、鍋山貞親獄中で転向を声明（その後共産党事件関係被告の転向続く）
		コロナ・オーケストラ第1回発表会。ジャズの夕。指揮紙恭輔
		R.シュトラウス《アラベラ》ドレスデンで世界初演

	N 響	社会・音楽界	
	1933年8月11日	有志により組織された《愛国吹奏団》初放送	
	1933年9月1日	大阪中央放送局学校放送を開始	
	1933年9月21日	宮沢賢治（詩人）没	
	1933年10月1日	日本放送協会放送審議会設置	
	1933年10月2日	フォックス社トーキーで諏訪根自子独奏メンデルスゾーン《ヴァイオリン協奏曲》撮影	
	1933年10月2～6日	フリードマン来日、ピアノ独奏会（翌年1月に再び）	
	1933年10月17日	第129回定期公演にイーグナツ・フリードマンを迎える（11月13・14日告別演奏会にも出演）	
	1933年11月15・17・18日	ヴォーカル・フォア公演、歌劇《椿姫》に出演。指揮山田耕筰	
	1933年12月5日	PCL管弦楽団第1回公演。指揮紙恭輔、山田耕筰	
	1933年12月28日	皇太子殿下誕生御慶事対米国際放送	
1934 昭和9年	1934年1月1日		
	1934年1月13～15日	金曜会主催《アルの女》に出演、3幕5場全曲初演。指揮山田耕筰	
	1934年1月25日		
	1934年1月26日	第135回定期公演に再度エマヌエル・メッテルを迎える	
	1934年1月26日		
	1934年1月30日	佐藤美子、大田黒養二、徳山璉、関種子らによる歌劇《カルメン》に出演指揮山田耕筰	
	1934年2月20日		
	1934年2月23日	池内友次郎作品発表会に出演。指揮クラウス・プリングスハイム	
	1934年2月23日		
	1934年4月10日	寺田豊次（ヴァイオリン）、橘常定（チェロ）、片山信四郎（ピアノ）らアポリアン・トリオ結成、第1回演奏会	
	1934年4月24日	関屋敏子帰国第1回独唱会	
	1934年4月27日～5月1日	ルースページ、クロイツベルグ舞踊公演	
	1934年5月28日	グラインドボーン・オペラ祭《フィガロの結婚》で開幕	
	1934年6月3日	アメリカ音楽学会創立	
	1934年6月7・8日	藤原歌劇団第1回公演を日比谷公会堂で催す。歌劇《ラ・ボエーム》（7月8日再演）	
	1934年6月12日	クロイツァー告別ピアノ演奏会に出演。ベートーヴェン3大ピアノ協奏曲を演奏。指揮近衛秀麿	
	1934年8月1日	レコード検閲実施	
	1934年8月19日	乙骨三郎（作詞、音楽教育）没	
	1934年9月1日	竹久夢二（画家）没	
		1934年9月13日	元ベルリンおよびフランクフルト交響楽団のコンサートマスター、コンラート・リーブレヒトをコンサートマスターに迎える。約1年間滞在
	1934年9月21日		
	1934年9月23日	東京好楽会が設立され、その第1回プロムナード・コンサートに出演（日比谷新音楽堂）	
	1934年9月23～27日		
	1934年9月28日		
	1934年9月29日	関西地方大風水害に東京朝日新聞社を通じ100円を送る	
	1934年9月30日	札幌在住の作曲家、演奏家、評論家より成る新音楽連盟、第1回演奏会として国際現代音楽祭を開催	
	1934年10月4～9日	フォイアマン来日、チェロ独奏会（1936〔昭和11〕年4月に再び）	
	1934年10月10日	高村光雲（彫刻）没	
	1934年10月16日	エンケル23年ぶりに来日、放送指揮	
	1934年10月17日	第144回定期公演にエマヌエル・フォイアマンを迎える（11月14日告別演奏会にも出演。この夜の聴衆約3,000人）	
	1934年12月1日		
	1934年12月29日	在原練習所から最後の中継放送《ヘンゼルとグレーテル》を山田耕筰指揮、伊庭孝解説で放送。この後は愛宕山新スタジオから放送	
	1934年12月31日		
1935 昭和10年	1935年1月1日	放送局内に増築された新演奏所開きにベートーヴェン序曲《献堂式》、モーツァルト《交響曲第41番》を演奏	
	1935年2月13日	第151回定期公演に作曲家・ピアニスト、アレクサンダー・チェレプニンを迎える。チェレプニン《ピアノと管弦楽のためのへ調協奏曲》、コダーイ《ハリ・ヤーノシュ》を日本初演	
	1935年2月18日		
	1935年2月27日	コロムビア・レコードに《ウィリアム・テル》序曲、《美しく青きドナウ》、《ボレロ》ほかを録音。指揮近衛秀麿	
	1935年2月28日		
	1935年3月20日		
	1935年3月23日		
	1935年4月2～11日		
	1935年4月9日		
	1935年4月22日	第153回定期公演にアルトゥール・ルービンシュタインを迎える	
	1935年5月8～14日		
	1935年5月17日		
	1935年5月24日	第156回定期公演に三度びエフレム・ジンバリストを迎える（6月19日告別演奏会にも出演）	
			菊地武夫貴族院で美濃部達吉の天皇機関説を攻撃。2月25日美濃部弁明演説を行ない反駁。3月4日岡田啓介首相、議会で天皇機関説反対を言明
			坪内逍遙（小説）没
			速水御舟（日本画）没
			衆議院国体明徴決議案を満場一致で可決
		ルービンシュタイン来日、ピアノ独奏会（2日は新響と協演。1966〔昭和41〕年6月にも来日）	
		美濃部達吉不敬罪で告発され、三著書発禁。この報に買手殺到	
		ジンバリスト6度目の来日、ヴァイオリン独奏会	
		ボール・デュカス（作曲）没	

1935年6月4日		伊藤武雄第1回独唱会
1935年6月10・12日		ガリ・クルチ来日、独唱会
1935年6月11日	新交響楽団組合を組織、規約を定め6月18日全員調印を終わる	
1935年6月11日		ベルトラメリ能子帰国第1回独唱会
1935年6月24日		R.シュトラウス《沈黙の女》ドレスデンで世界初演
1935年6月27日	改組に伴い銀座の事務所を閉鎖、荏原練習所内へ移す	
1935年7月22日	日本放送協会、新響を解約（9月2日放送再開）	
1935年8月18日	改組問題に端を免し無指揮者演奏会を日比谷新音楽堂で開催	
1935年9月23～30日		チェルカスキー来日、ピアノ独奏会
1935年9月30日		ガーシュウィン《ボーギーとベス》ボストンで世界初演
1935年10月9日		斎田愛子第1回独唱会
1935年10月30日～11月1日		マレシャル来日、チェロ独奏会（1937〔昭和12〕年2月に再び）
1935年11月24日		松坂屋シンフォニー（のちの中央交響楽団→東京交響楽団→東京フィルハーモニー交響楽団）第1回東京演奏会
1935年11月26日	ドイツから帰国したヴァイオリニスト貴志康一、指揮者として帰国演奏会を開く。全曲目を暗譜で指揮し話題となる（デビュー演奏会は9月12日大阪で）	
1935年12月		チェレブニン賞、伊福部昭第1席
1935年12月10日	サン・サーンス生誕100年記念演奏会。指揮山田耕筰	
1935年12月17日	新響バッジ制定。制作奥村博史	
1935年12月24日		藤原歌劇団第5回公演、オペラ・コミックからマリア・クズネツォヴァを迎え《トスカ》原語上演
1935年12月24日		アルバン・ベルク（作曲）没
1935年12月25日		放送協会《祝祭典用管弦楽曲》懸賞募集入選発表。飯田信夫、早坂文雄ら
1935年12月28～29日	コロムビア・レコードにシューベルト《交響曲第8番》、ベートーヴェン《交響曲第5番》を録音。指揮山田耕筰	